

SP-1

医療機関向け虐待対応プログラムBEAMS Stage 1

田上 幸治

神奈川県立こども医療センター 患者家族支援部長 総合診療科

子ども虐待の数は毎年増え続け、子ども虐待が小児医療、保健、福祉、教育、司法にまたがる重要課題の一つとなっていることは、多くの人の認識しているところである。虐待を受けた子どもの予後には、死亡や身体的後遺症ばかりでなく、愛着形成の障害、心的外傷後ストレス障害、様々な精神トラブル、さらに虐待の世代間連鎖がある。虐待を受けた子どもの心の専門的な長期的ケアは、その子の一生にわたる心の健康と虐待の連鎖を断ち切るうえで重要である。一方、予防の観点から、ハイリスクと思われる親、子ども、環境に対して、援助的介入を行っていく必要がある。ともかく、虐待されている子ども達を一刻も早く救い出すこと、これ以上虐待が増えていかないように取り組むことは、現在、我が国の社会に課せられた重要課題である。この問題には、行政的施策の充実とともに、子どもと家族の健康と福祉にかかわる様々な機関、職種の連携が欠かせないが、その中にあって医療関係者は子どもの代弁者の代表として、先頭に立って行動すべきである。我々は医療機関対象虐待対応プログラムBEAMSを作成し、2014年度11月から全国で開催している。プログラムはStage1.2.3で構成され、概要は以下の通りである。

BEAMSプログラム

Stage 1：受講者が、虐待の早期発見と通告の意義を理解し、医療機関での虐待のSentinel（見張り番）として、適切な行動がとれるようになることが目標である。

Stage2：医療機関が子ども虐待に対し、組織的に子どもの安全をより確実に担保し、支援につなげていくための仕組みとしての『病院内子ども虐待対応組織』（CPT:Child Protection Team）を構築、より充実したものにすることが急務である。このようなCPTのメンバー医師や小児科医が対象である。受講者が被虐待児の安全を担保し地域へ繋げ、医学診断をネットワークに的確に提供できるようになることが目標である。

Stage3：受講者が虐待対応の医療的リーダーシップを発揮できるようになることが目標である。Stage1.2の講義を終了したCPTリーダー医師や、子ども虐待に専門性の高い医師（子ども虐待専門医）を目指す医師を対象にしている。

今回は、Stage 1を講義する。さらに勉強したい方はStage2.3に繋がてください。

<https://beams.childfirst.or.jp/>